

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000260		
法人名	有限会社 睦和福祉会		
事業所名	ライフサポートあさひ		
所在地	佐賀県佐賀市川副町鹿江1413-8		
自己評価作成日	平成28年3月1日	評価結果市町村受理日	平成28年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成28年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スプリンクラーの設備やリビングや居室には空気清浄加湿器を設置している。害虫駆除や衛星面でも専用の業者をお願いをし、定期的に点検が行われている。感染症の予防に関しては、ノロウイルスに効果のある次亜塩素酸を含む消毒液を毎日作り、手すりやトイレの床を拭きあげている。また、入居者の状況に応じ簡単なリハビリを実施、体を動かしたり、塗り絵をしたりとレク活動を行っている。希望に応じては主治医の同意のもと、訪問マッサージを医療保険出やすく受けることができる。浴室にはリフトが設置しており、寝たきりの方も浴槽に入ることができる。ベッドからの移乗の際は、安全に移乗できるように介護ロボットを導入している。これにより職員の腰痛軽減にも役立てられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景が広がり、保育園より子供の遊んでいる姿や元気な声が聞こえる場所に平屋建ての2ユニットのグループホームがある。「安心・明るく・楽しく・尊厳」を掲げ、特に、感染予防に努め、入居者、職員の健康管理に配慮されている。また、協力医による往診や看取り支援も行われている。入居者と職員の元気で明るい笑い声が響き、時間がゆっくり過ぎ、その人らしく安心して過ごすことができるよう取り組まれているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小ミーティングや全体ミーティングで理念に基づいた取り組みを行えるように話し合いを行っている。また、理念はリビングに啓示している。	小ミーティングや全体ミーティングで理念に基づいた取り組みを行えるように話し合いを行っている。また、理念はリビングに啓示している。	風紀委員会を立ち上げ、「明るく、安心、楽しく、尊厳」をキーワードに接遇や言葉使いに注意しながら、理念の実践に取り組まれている。また、定期的にミーティングで確認され、職員の理解を深められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の川副ネットワークの勉強会、敬老会に参加している。自治会長と一緒に避難訓練を実施。	地域の川副ネットワークの勉強会、敬老会に参加している。自治会長と一緒に避難訓練を実施。	自治会に加入されており、回覧板の受渡しや自治会長との連携により、ボランティアの受け入れや地域住民の避難訓練参加などの交流や情報交換が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の家族には認知症の方の理解や支援の方法など一緒に考えているが、他の地域の人々には発信できていない。	入居者様の家族には認知症の方の理解や支援の方法など一緒に考えているが、他の地域の人々には発信できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おたっしや本舗の方と自治会長を招いて行事に参加したり、意見交換を行っている。しかし、家族の参加には至っていない。	おたっしや本舗の方と自治会長を招いて行事に参加したり、意見交換を行っている。しかし、家族の参加には至っていない。	運営推進会議の日程を固定化で、開催日時が周知され、家族の参加ができている。また、地域の特性やホームでの状況報告等、情報交換が行われ、出た意見はサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	居室の空き状況などおたっしや本舗との協力関係は築けている。	居室の空き状況などおたっしや本舗との協力関係は築けている。	家族会へに市町職員の参加などの交流がある。また、市町には頻回に相談、連絡、報告されており、協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため、玄関は施錠している。ユニット間の入り口には鈴をつけている。また、状況に応じて家族への説明を同意のもと、安全ベルトを使用しており、使用時間も記録している。	安全確保のため、玄関は施錠している。ユニット間の入り口には鈴をつけている。また、状況に応じて家族への説明を同意のもと、安全ベルトを使用しており、使用時間も記録している。	安全を第1に優先し、玄関の鍵は常時施錠されている。また、車椅子からのすり落ち予防のため、安全ベルトを使用している。毎日、状況確認や評価をしているが、解除に向けての取り組みは不十分な面がある。	拘束解除ができるタイミングや短時間からの拘束解除ができるタイミングの検討など、今後の取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今期は勉強会を行っていないが入居者様の様子や、体の状態には常に観察し注意している。	今期は勉強会を行っていないが入居者様の様子や、体の状態には常に観察し注意している。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今期は勉強会を行っていないが、必要な場合には相談に応じる。	今期は勉強会を行っていないが、必要な場合には相談に応じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了の際に十分な説明を行い、納得、理解していただいた上で署名、捺印をしてもらっている。契約終了時にも契約解除届を書いている。	契約終了の際に十分な説明を行い、納得、理解していただいた上で署名、捺印をもらっている。契約終了時にも契約解除届を書いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会に1家族ずつ個室で対応する機会を設け、その時に要望などを聞いている。	年に2回の家族会に2家族ずつ個室で対応する機会を設け、その時に要望などを聞いている。	家族会や介護計画書の意向の確認時に、個別で意見や要望の把握に努められている。また、出た意見は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来るだけたくさん意見を出しやすく、発言しやすいように職員を2つのチームに分け、ミーティングを実施。その意見を全体会議で話し合うようにしている。	出来るだけたくさん意見を出しやすく、発言しやすいように職員を3つのチームに分け、ミーティングを実施。その意見を全体会議で話し合うようにしている。	ユニット会議で職員の意見をまとめ、全体会議で代表者に提案されている。会議は意見が出やすく、その意見を運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務姿勢を把握した上で、賞与に反映するようになっている。また、主婦の方は子供連れで勤務できるようになっている。冬場は感染症も流行するので薬品会社より、インフルエンザ予防対策として飲料を購入し、ティータイムの時に飲まれている。	職員一人ひとりの勤務姿勢を把握した上で、賞与に反映するようになっている。また、主婦の方は子供連れで勤務できるようになっている。冬場は感染症も流行するので薬品会社より、インフルエンザ予防対策として飲料を購入し、ティータイムの時に飲まれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて研修を受けられるようになっている。また資格取得のための休みにも対応されている。	必要に応じて研修を受けられるようになっている。また資格取得のための休みにも対応されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	経営が同じグループホーム職員との交流の場を設けてあり、お互いの業務に関しての意見交換が行われている。また川副町の他の施設と合同で避難訓練を行った。	経営が同じグループホーム職員との交流の場を設けてあり、お互いの業務に関しての意見交換が行われている。また川副町の他の施設と合同で避難訓練を行った。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時やサービス開始する段階でり王者が困っていることや、要望がないかを尋ね把握していくように努めている。	入居契約時やサービス開始する段階でり王者が困っていることや、要望がないかを尋ね把握していくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時のアセスメントで家族からの要望や心配していることはないか、話をしている。	契約時のアセスメントで家族からの要望や心配していることはないか、話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に、今後必要と思われるサービスを考え実施している。	サービス開始時に、今後必要と思われるサービスを考え実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の昔の生活の知恵など聞くこともあり、勉強になる。料理の味付け子育てなど。	入居者様の昔の生活の知恵など聞くこともあり、勉強になる。料理の味付け子育てなど。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態に応じて、家族様と頻りに連絡を取り合い、今後の方針に向けた相談を行っている。また、ご本人からの電話や外出、病院受診、散髪、必要物品の購入などいつでも対応している。	入居者様の状態に応じて、家族様と頻りに連絡を取り合い、今後の方針に向けた相談を行っている。また、ご本人からの電話や外出、病院受診、散髪、必要物品の購入などいつでも対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人への手紙や電話などいつでも取りついでいる。	昔の友人への手紙や電話などいつでも取りついでいる。	近所からの面会や入居者の兄弟の面会が多い。また、入居者の家の近所までドライブに行ったり、馴染みの関係が途切れない様に支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動を通してなるべくリビングで過ごしてもらい、職員や他の入居者様と交流ができるようにしている。また、ユニット間がガラスなので2ユニットが見えるようになっている。	レク活動を通してなるべくリビングで過ごしてもらい、職員や他の入居者様と交流ができるようにしている。また、ユニット間がガラスなので3ユニットが見えるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談支援を行っている。	サービス終了後も必要に応じて相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時や普段の生活の中で、定期的にあセスメントを行い、希望や意向の把握に努めている。困難な場合もなるべく入居者本位のサービスが行えるように考えている。	サービス開始時や普段の生活の中で、定期的にあセスメントを行い、希望や意向の把握に努めている。困難な場合もなるべく入居者本位のサービスが行えるように考えている。	普段の会話の中や、家族からの生活歴等の情報提供を受けて、入居者の意向の把握に努められている。訴えができない方は、動作や仕草で把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に今までの生活環境や生活歴について話を聞き、ご本人様の趣味や嗜好、サービス利用の経過について把握するように努めている。	契約時に今までの生活環境や生活歴について話を聞き、ご本人様の趣味や嗜好、サービス利用の経過について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の担当職員をはじめ、全職員が普段の生活状況を見ながら、利用者様のその時の状態を有する可能性について考え、会意義の場や業務の中で把握するように努めている。	入居者様の担当職員をはじめ、全職員が普段の生活状況を見ながら、利用者様のその時の状態を有する可能性について考え、会意義の場や業務の中で把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、全体会議での意見交換、主治医からの意見に基づき、現状に即した介護計画書を作成している。	アセスメント、全体会議での意見交換、主治医からの意見に基づき、現状に即した介護計画書を作成している。	毎月の状況確認と半年に1回の評価が行われている。ホーム担当者や入居者、家族の意向を踏まえ、個別介護計画書が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に、毎日のケアや気づいたことを記録しており、職員間で申し送りを行っている。内容によっては、介護計画に組み込んでいる。	個々のケース記録に、毎日のケアや気づいたことを記録しており、職員間で申し送りを行っている。内容によっては、介護計画に組み込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の必要性があり、その際には家族様の都合がつきにくい場合は、有料ではあるが代わりに職員が付き添い、受診している。入院中の必要な物品などを準備することもある。	受診の必要性があり、その際には家族様の都合がつきにくい場合は、有料ではあるが代わりに職員が付き添い、受診している。入院中の必要な物品などを準備することもある。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、実施されている川副ネットワークに、職員が交代で参加している。	毎月、実施されている川副ネットワークに、職員が交代で参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に今までのかかりつけの医療機関の受診を希望されるか否かを確認している。	契約時に今までのかかりつけの医療機関の受診を希望されるか否かを確認している。	希望に応じて、かかりつけ医の継続支援を行っているが、入居時に協力医への変更がされる方が多い。緊急時や夜間でも協力医の往診があり、適切な医療体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて非常勤の看護師と協力医療機関の看護師に相談し、速やかに対応している。	必要に応じて非常勤の看護師と協力医療機関の看護師に相談し、速やかに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は、経過に伴い医療機関との連絡を取り合い、状況に応じて話し合いを設けている。早期退院に向けて働きかけている。	入居者様が入院された場合は、経過に伴い医療機関との連絡を取り合い、状況に応じて話し合いを設けている。早期退院に向けて働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期のあり方について、ご家族様に説明をし、同意書をとっている。また終末期となられた場合には、ご家族様と医療機関、グループホームの職員が密に連絡を取り合い、今後の事を話し合っている。	契約時に重度化や終末期のあり方について、ご家族様に説明をし、同意書をとっている。また終末期となられた場合には、ご家族様と医療機関、グループホームの職員が密に連絡を取り合い、今後の事を話し合っている。	入居時に説明し契約されている。終末期支援では、方針を共有し、緊急時や急変時など、その都度、主治医の診療や指示を受けることができる。希望があれば、家族も宿泊することができ、家族や関係機関と一緒に看取り支援をされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊の指導のもと、応急救護の実施。	救急隊の指導のもと、応急救護の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。地区の自治会長様との避難訓練の実施。しかし消防団との訓練には至っていない。	避難訓練の実施。地区の自治会長様との避難訓練の実施。しかし消防団との訓練には至っていない。	年2回通報訓練や消防署の立会い、川副地区合同で避難訓練が実施されている。災害時の避難場所や入居者の避難方法を確認され、地域消防団への参加呼びかけも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけないように、また思いやりのある適切な言葉遣いができるように努力している。	入居者様の自尊心を傷つけないように、また思いやりのある適切な言葉遣いができるように努力している。	入居者の尊厳を損なわないような言葉掛けや対応に努められている。特にトイレ誘導など排泄に関しては配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク活動では何をやりたいか、どこに行きたい、食べたいか、お誕生のプレゼントは何が欲しいのか聞いたりして計画を立てている。	レク活動では何をやりたいか、どこに行きたい、食べたいか、お誕生のプレゼントは何が欲しいのか聞いたりして計画を立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの一日の生活の流れはあるが、起床時間、入浴時間、就寝時間などひとりひとりの希望に沿っている。またその日着る洋服なども決めてもらっている。	だいたいの一日の生活の流れはあるが、起床時間、入浴時間、就寝時間などひとりひとりの希望に沿っている。またその日着る洋服なども決めてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、外部の美容室の方に来てもらって、カット、カラー、パーマなどしてもらっている。また化粧品などの購入なども行っている。	二ヶ月に一度、外部の美容室の方に来てもらって、カット、カラー、パーマなどしてもらっている。また化粧品などの購入なども行っている。洗面所には鏡やブラシを置き、いつでも整髪できるようになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器など拭いてもらったりしている。嫌いな食べ物については別の食品を出したりしている。	食器など拭いてもらったりしている。嫌いな食べ物については別の食品を出したりしている。	入居者も食器を拭いたり、後片づけを手伝われている。また、食事形態も個別に対応されるなどの配慮がある。会話を楽しみながら食べるなど、雰囲気づくりもされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回記録し、水分摂取量が少ない方は水分量をはかっている。また嚥下が悪い方はとろみを使用している。食事形態も個々に合わせている。	食事量は毎回記録し、水分摂取量が少ない方は水分量をはかっている。また嚥下が悪い方はとろみを使用している。食事形態も個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを実施。自分で出来ない方は介助している。また、スポンジブラシも使用しており、二週間に一度はポリデント洗浄をしている。口のトラブルは歯科往診を利用している。	毎食後には口腔ケアを実施。自分で出来ない方は介助している。また、スポンジブラシも使用しており、二週間に一度はポリデント洗浄をしている。口のトラブルは歯科往診を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェック表に記入し、個々にトイレ誘導を行っている。出来るだけオムツを少なくする方向に支援している。	排泄パターンをチェック表に記入し、個々にトイレ誘導を行っている。出来るだけオムツを少なくする方向に支援している。	排泄表を活用し、排泄パターンを把握している。日中は、布パンツを使用し、時間誘導を行うことで、トイレでの排泄を促し、排泄の自立支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く入った食材とバランスのとれた献立になっている。汁物の具は多くの野菜を入れるようにしている。水分量は疾患に応じて主治医に尋ねている。場合によっては、内服の調整をしている。	食物繊維の多く入った食材とバランスのとれた献立になっている。汁物の具は多くの野菜を入れるようにしている。水分量は疾患に応じて主治医に尋ねている。場合によっては、内服の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	入居者様の希望に応じて入浴してもらっている。午前、午後どちらでも良い。リフトも設置している。	入居者様の希望に応じて入浴してもらっている。午前、午後どちらでも良い。リフトも設置している。	快適に入浴が出来るように、浴室、浴槽の温度管理が行われている。リフトを設置したことで、湯船に浸かることが難しかった入居者もゆっくりと安全に入浴することができている。入居者の状態に合わせた柔軟な対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて、入居者様の好きなように過ごされている。リビングや居室など。昼夜逆転されないように、運動やレク活動を行っている。	個々に応じて、入居者様の好きなように過ごされている。リビングや居室など。昼夜逆転されないように、運動やレク活動を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服はファイルに閉じている。薬の変更があった時もわかりやすくノートに書くようにしている。	個々の内服はファイルに閉じている。薬の変更があった時もわかりやすくノートに書くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、塗り絵、軽作業をされたりして、気分転換をされている。また夕食後にはタオル干しを手伝われる人もおられる。	カラオケ、塗り絵、軽作業をされたりして、気分転換をされている。また夕食後にはタオル干しを手伝われる人もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日には外気欲や、散歩に行ったりしている。他にもお花見やコスモスやドライブなど昨年よりも外出できた。	天気がいい日には外気欲や、散歩に行ったりしている。他にもお花見やコスモスやドライブなど昨年よりも外出できた。	天気の良い日は、庭先に出て外気浴を行ったり、季節毎のドライブへ行ったりと、外出ができるように取り組まれている。	



自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(ユニット名)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出される方には、希望に応じてお小遣いを持って使えるようにしている。	外出される方には、希望に応じてお小遣いを持って使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族との電話はいつでもかけられるようになっている。手紙も出すが、あまり書かれる人は少ない。	希望があれば、家族との電話はいつでもかけられるようになっている。手紙も出すが、あまり書かれる人は少ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には絵手紙など掲示している。またリビングや居室には空気洗浄加湿器、湿度計を設置している。	共有の空間には絵手紙など掲示している。またリビングや居室には空気洗浄加湿器、湿度計を設置している。	天窓やリビングの大きな窓から光が入り、ホーム全体が明るく、清潔感が漂っている。感染予防のために、1日2回床を拭き上げ、適切に換気が行われている。不快な音や光もなく、居心地良く過ごせる工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングになるべく過ごしていただけるように促しているが、居室で過ごされている方も見守りをおこなっている。	リビングになるべく過ごしていただけるように促しているが、居室で過ごされている方も見守りをおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、その他の小物など、今まで自宅で使用されていた愛着のあるものを持ち込めるように伝えている。	家具、その他の小物など、今まで自宅で使用されていた愛着のあるものを持ち込めるように伝えている。	持ち込みに制限はない。感染予防のため、空気清浄器が設置されている。また、似顔絵や写真が飾られ、落ち着いて過ごすことができるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が自分の居室とわかりように表札を設けたり、転倒防止のため、センサーを利用し安全確保に努めている。	入居者様が自分の居室とわかりように表札を設けたり、転倒防止のため、センサーを利用し安全確保に努めている。		